

大麦管理情報 (第2号)

令和5年11月15日
農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

平年に比べ、平均気温は、10月が16.9℃（平年差-0.1℃）と並、11月上旬が18.0℃（同+4.8℃）とかなり高かった（図1）。

(2) 降水量

平年に比べ、降水量は、10月が166.0mm（平年比97%）、11月上旬が50.5mm（同80%）と並であった（図2）。

(3) 全天日射量

平年に比べ、全天日射量は、10月が11.7MJ/m²/日（平年比111%）とかなり多く、11月上旬が9.6MJ/m²/日（同116%）と多かった。

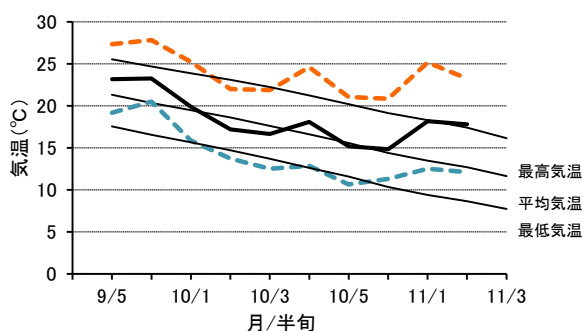


図1 気温の推移 (富山地方気象台)

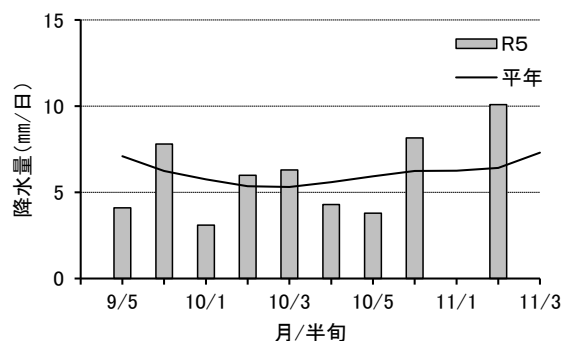


図2 降水量の推移 (富山地方気象台)

2 生育概況

- ・平年に比べ、草丈は長く（平年比111%）、茎数は並（平年比99%）、葉齢はやや大きく（平年差+0.3葉）、葉色はやや淡く（平年差-1.5）なっている（表1、図3・4）。
- ・生育はほ場によるばらつきが大きく、排水不良のほ場では茎数が少ないなど、生育量が小さくなっている。

表1 大麦の生育状況 (11月15日)

	播種期 (月/日)	苗立数 (本/m ²)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
				(本/株)	(本/m ²)		
6年産	10/7	167	29.1	3.1	528	5.4	37.9
5年産	10/6	170	27.1	3.8	609	5.2	42.7
平年	10/5	174	26.1	3.1	536	5.1	39.4

注) 調査ほ場数: 10、播種様式はすべてドリル播き、平年はH26~R5年産の平均

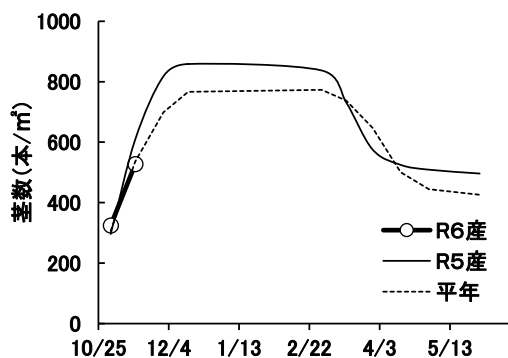


図3 茎数の推移

注) 平年は H26~R5 年産の平均

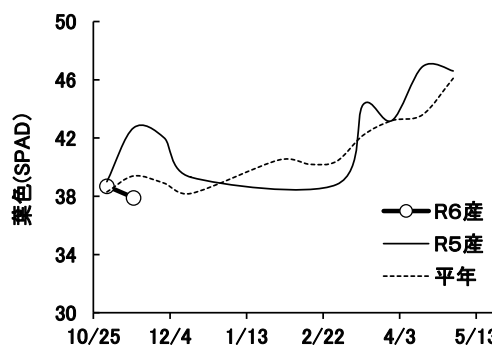


図4 葉色の推移

注) 平年は H26~R5 年産の平均

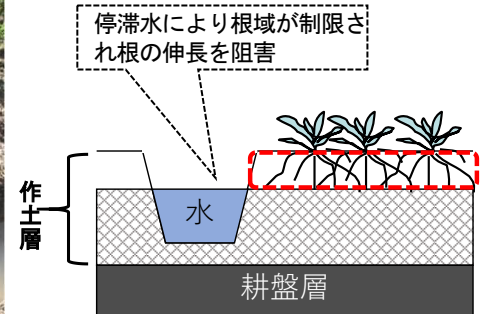
3 当面の技術対策

(1) 排水対策の徹底

越冬前に目標茎数（600～800本/m²）を確保するため、排水溝の崩れや排水口への連結や排水口の掘下げ状況等を点検し、手直しを行い排水に努める。

【排水不良のほ場】

溝に水がたまっている



排水溝の高い部分や埋まりを削り、排水口へ連結する

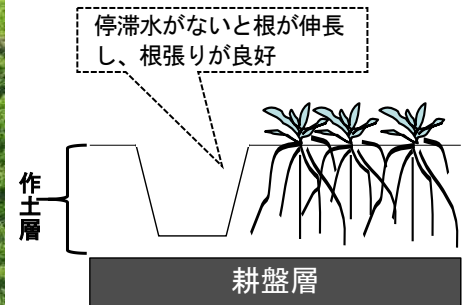


排水口

排水口

【排水良好のほ場】

ほ場内に停滞水がない



(2) 分施肥体系の年内追肥

- ・ 基肥窒素は、播種後1か月頃になると大麦の吸収や溶脱により土壌中の残存量が少なくなるため、追肥は播種後1か月頃に、窒素成分で10a当たり4kgを目安に施用し、茎数を確保する。
- ・ 年内追肥は原則として、播種後1か月頃の1回のみとするが、12月初めの生育が茎数500本/m²以下で、かつ、葉色がSPAD値で30以下のほ場では、窒素成分で10a当たり2kg以内の追肥を施用する。